

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1494400128	事業の開始年月日	平成29年11月16日
		指定年月日	平成29年11月16日
法人名	社会福祉法人 三栄会		
事業所名	グループホームすずの家		
所在地	(252-1115) 神奈川県 綾瀬市 落合南 2-1-5		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和2年10月20日	評価結果 市町村受理日	令和3年8月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日一日を大切にして、皆で支え合いながら穏やかに過ごしていただいています。毎日、笑顔が見られるよう一人ひとりに寄り添った生活を送っていただいています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年11月26日	評価機関 評価決定日	令和3年6月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急江ノ島線「長後」駅西口から神奈中バス「長坂上」行きに15分乗り終点にて下車、停留所から道路沿いに徒歩1分の所にあります。周囲は住宅地や林、農地が混在している静かな佇まいです。建物は明るい外壁の鉄筋2階建てで1階2階を利用した2ユニットのグループホームです。玄関脇にはベンチがあり休んだり、交流したりすることが出来ます。

<優れている点>

記録業務の省力を目的にタブレット情報端末を導入し、活用して時間の削減に取り組んでいます。午後のひと時における介助やかかわりの時間増に役立っています。残業など時間外の削減にもつなげています。市高齢介護課との密な連携が出来ていて、福祉行政情報の入手や意見交換、赤外線式体温計やマスクなどの消耗品の要望に対して支給を受けるなど、安心の介護に繋がっています。利用者それぞれに合わせた協力医の日々の訪問があり、安心感のある医療連携が出来ています。

<工夫点>

コロナ禍の状況の中でも面会の時間や場所、一日の訪問家族数を決め「家族訪問者チェックシート」を確認しながら連絡を行うなどの工夫をし、安全で安心できる面会を実現しています。職員は家庭や身内などの接触者の環境も含めてチェックする「体温管理表」をもとに毎日感染症状などの予防確認を行い、施設内への感染防止の機能として役立っています。施設便りや施設入所案内を玄関前の柵に箱を設置して、自由に持ち帰ることができるように工夫しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームすずの家
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入口、事務所、各フロアにすずの家の理念を掲示し職員は実務に努めている。申し送り時、カンファレンス、勉強会で理念を確認し、サービスを実施している。	理念を話し合い、その言葉一つずつを分解して、わかり易く具体的な支援のための言葉に落としています。利用者と一緒に唱和し、共通の理念としています。職員は勉強会やカンファレンスにて確認しながら、理念の実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に参加し、クリーンキャンペーンや井戸端会議、ふれあい喫茶に参加し交流を図っている。地域の方が大正琴やお菓子作り等のボランティアで来所される。（現在コロナウイルス感染拡大防止のため、中止状態）	市が主催している環境クリーンキャンペーンのごみ拾いに参加しています。親しくしているNPO法人のボランティアの活動や地域のふれあい喫茶などは現在は中止中ですが、収束後はすぐ再開できる準備を行って連絡を取り合っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入口に看板を立て、地域の方が気軽に訪問できる環境づくりを行っている。（現在、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止状態）		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用状況、行事等の報告を行い、意見交換している。（コロナウイルス感染拡大防止のため、運営推進会議は書面で行っている）	隔月で市職員、民生委員、地域ケアプラザ職員、家族を交えて開催していましたが、現在は書面会議となっています。施設内で取り組んでいる行事やヒヤリハット、利用状況などを書面で報告しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の高齢介護課へ毎月空室状況を報告。開所時より毎回、運営推進会議に出席いただき入居者の様子や取組等を説明し、意見交換している。（コロナウイルス感染拡大防止のため、運営推進会議は書面で行っている）	毎月、市高齢介護課と情報交換をしています。赤外体温計、マスク、アルコール、介助用ガウンなど現時点での必要なコロナ対応品の過不足を報告して支給を受けています。運営推進会議の書面報告や「広報あやせ」などの市関係情報の受け取りをしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束について研修に参加し、3ヶ月に1度、勉強会で情報を共有し、身体拘束をしないケアを実践している。(コロナウイルス感染拡大防止のため、外部研修は見合わせている)	年4回勉強会を実施しています。職員は自己点検シートを活用して身体的拘束をしないケアの具体的な在り方を振り返りながら日々の支援に取り組んでいます。やむを得ず夜間の注意が必要な場合は、了解のもと足元センサーを設置して転倒防止に努めています。安全上玄関の施錠をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修に参加し、3ヶ月に1度勉強会で情報共有し、虐待防止に取り組んでいる。(コロナウイルス感染拡大防止のため、外部研修は見合わせている)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的に研修に参加し、勉強会で情報共有し、権利擁護に取り組んでいる。(コロナウイルス感染拡大防止のため、外部研修は見合わせている)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約の際は、重要事項内容について説明を行い疑問や不安があれば、じっくり話し合いを行うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	事務所前に意見箱を設置したり、家族の意見や要望を伺い反映するよう努めている。	家族会やアンケートはしていませんが来訪時に積極的に希望や意見を聞く機会を作っています。毎月施設内での行事の様子を写真に撮り、家族に送付しています。家族からは喜びや安心している旨の返事が返って来ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は週に数回、管理者はほぼ毎日出勤し、コミュニケーションがとれている。カンファレンスや個別面談で職員の意見を聞き反映している。	副ホーム長制を導入して、職員の意見を吸い上げやすくしています。年間行事の企画やボランティア活動などに取り組んでいます。法人責任者が頻繁に来訪し、職員の意見や要望などを聞く機会としています。個人面談も年2回実施して希望や意見に耳を傾けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、週に数回来所し、職員の体調、精神面に気を配っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修を推奨し、希望者には、勤務変更等受講しやすい環境作りがされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市内の他事業者と2ヶ月に一度の連絡会に参加して交流をもっている。（現在、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止状態）		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に本人と面談し、要望、困りごと、不安なことを聞き取り安心して生活できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前に家族と面談を行い、困りごとや不安なことなどについて、傾聴し、安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族から話を聞き取り必要な支援は何か見極め支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常に職員は、利用者主体で関わり、一緒の時間を大切にする中で、お互いの理解を深め思いをくみ取り活かそうとしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族は、本人にとって一番重要な存在であるため、いつでも面会したり、外出できるよう働きかけている。日々の様子を知っていただくために、月に一度便りと写真を送付している。（現在、コロナウイルス感染拡大防止のため、面会中止状態）		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族と馴染みの方の来所を促している。自宅への一時帰宅も行っている。（現在、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止状態）	利用者の多くが市内在住者です。敬老会の案内や記念品が届けられています。馴染みの美容室に行ったり、家族の送迎で自宅泊をしたり、散歩中に友達と会えば会話するなど、現在はコロナ禍のため交流は自粛と成っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	申し送りやカンファレンス等で情報共有し、利用者一人ひとりの性格を把握し、毎日マンツーマンで複数の職員が関わる時間を持てている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスを終了したご家族に運営推進会議に参加していただいている。（現在、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止状態）		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を日々の言動からくみ取っている。希望をうまく伝えられない方は、表情、仕種でくみ取るように努めている。	思いや意向によって予期せぬ言動や行動に繋がる時は、ゆっくり時間を置いたり職員を変えて様子を見ながら対応しています。症状をよく観察しながら一人ひとりの気持ちに合わせて支援できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族面談の時などに本人の生活履歴を確認し、職員で情報共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のケア記録で心身状態や様子を残し、職員は出勤時に記録に目を通し、状況を確認するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族からの要望、意見を確認し、カンファレンスで話し合い作成している。	毎朝出勤時に4項目（申し送りノート、医師の往診記録、看護師訪問記録、事故報告書）を確認し、サインをしています。毎日のケア記録をもとに3ヶ月でモニタリング、6ヶ月でカンファレンスを開き、家族の希望や意見を確認して新たなプランの作成につなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	食事、服薬、排泄、日々の様子、発言内容をタブレットに記録している。個別記録は、一覧でき職員間で情報交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	カンファレンスや申し送り等で情報交換し、変化するニーズに対応したサービスができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアの方々に定期的に来てもらうことで利用者が楽しまれている。近所の美容室がヘアカットに来てくれたり、ふれあいの家のカフェを利用し楽しんでいただいている。（現在、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止状態）		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入所時にご本人、ご家族と相談の上、適切な医療を受けられるよう支援している。	事業所は地域にある訪問医療機関と連携しています。担当医師による利用者一人ひとりの状態に合わせて往診してきめ細かい医療サポートとなっています。歯科医院も毎月往診しています。健康診断は毎年9月に実施し、適切な医療を受けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は、週に一度来所し、必要時は、24時間365日連絡し確認できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院のソーシャルワーカーと連携を図り、情報交換、相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期に関しては、入居時に指針を説明している。入居後、終末期と考えられたら、ご家族、ケアマネ、ホーム長、医師、看護師と現状、今後の対応を確認し、定期的に面談を行う。	入居時に看取り指針に基づき、事業所の支援体制について、利用者・家族に説明しています。看取りの経験はありませんが、終末期の対応については、医療面の支援を受けながら家族や職員と連携し取り組む計画を立てています。	介護度の高い人が多くなって来ています。看取り対応について早めに実践的な教育、研修を行うことも期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	経験が浅い職員は、独力での対応が難しいこともあるが、管理者や同僚らの力を借りながら対応している。医師、看護師より支持を受けた内容は、スタッフで共有し、実践できている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に防災訓練を行っている。年に2回消防署立ち合いの総合訓練を行っている。（現在、コロナウイルス感染拡大防止のため、総合訓練は中止状態）	今年度はコロナウイルスの影響で防災訓練を中止していますが、昨年は年2回消防署の協力を得て実施しています。訓練では、利用者も参加し、水消火器での消火訓練などを行っています。備蓄リストを作成して管理しています。	水、非常食用ゼリー、ラジオ、ガスボンベ、コンロなどを備蓄しています。備品の入れ替えが円滑に実施できるように使用期限もリストに記載しておくことも期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように尊敬の念を持って接している。	親しい利用者に対しても「○○ちゃん」と呼ばないようにきちんと名前で声かけをしたり、スピーチロックにつながらないように気をつけて接しています。居室での着替えや浴室では、必ず扉やカーテンを閉めることを徹底してプライバシーの確保に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者の活動を制限しないよう見守っている。危険の無い範囲で自由に活動していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の訴えに寄り添う努力を行っている。利用者のペースに合わせて穏やかに過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床、就寝時や入浴の際は、服を自分で選んでいただけるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや食器拭き等職員と一緒にしている。	食材は外部の宅配業者を利用し、調理は職員が行っています。利用者の状況に合わせて、きざみ食やミキサー食も提供しています。苦手な料理がある利用者には別の食事を作ったりして、メニューも工夫しています。食器拭きを手伝う利用者もいます。	食事の楽しみを増やすため、日常とは異なる食事会などの工夫も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	タブレットに食事摂取量記録している。水分摂取量がすくないかたには、水分摂取量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、行っている。月に一度歯科往診があり、歯科医と連携が取れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	立位可能な方は、トイレ内でパット交換を行っている。ご本人よりトイレの訴えがある時は、その都度誘導している。	高齢者が多く、自立をしている人は少ないですが、排泄記録により利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握しトイレへの声かけをしています。排泄状況について排便が遅れている場合は、職員間で共有し体操や水分の摂取などで適切にフォローしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、体操を行い体を動かし、水分を多めに摂取できるように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの希望やタイミングで入浴は行えていない。	入浴は週2回、午前は女性、午後は男性に割り当てて実施しています。季節を感じてもらうため、しょうぶ湯やゆず湯など利用者を楽しんでもらう工夫をしています。入浴のタイミングが合わない利用者には本人の意向を尊重しながら対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	基本的に起床、就寝時間設けていない。ご本人の習慣を大切に、昼食後、お昼寝される方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人のお薬表を作成してもらっている。症状の変化で医師より内服薬変更等は、連絡ノートを活用して職員全員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の会話の中から、要望を確認するように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候の良い時は、散歩やドライブへ出かけている。普段いけない場所もご家族様の協力を得て、外出、外泊されている利用者もいる。(現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出、外泊中止状態)	事業所の近くにある公園や利用者が以前暮らしていた自宅付近まで散歩したりしています。ドライブは、小出川の公園や海老名のドライブインまで遠出して、外出を楽しめるよう支援しています。コロナ禍前は家族が週末に利用者連れて自宅泊もしていました。	コロナ禍の中でもドライブを楽しめるように支援しています。移動手段の拡充により、より多くの人々の利用が出来る工夫が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には、現金所持は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	認知症状が軽度で自ら要望がある時は、行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入口にプランターを設置し、職員と水やりを行ったり、季節に合った掲示物を行ったりしている。	床はフローリングでバリアフリーです。廊下も幅広く、車椅子での移動もスムーズにできます。各フロアの廊下脇には、利用者が腰かけられるようソファを置き、くつろげるように配慮しています。庭先のプランターで季節の花づくりも楽しめるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下にソファを置き居心地の良い場所でゆっくりと過ごせるような工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、なるべく使い慣れた馴染みのある家具、コップや思い出の品をご家族に持ってきていただけるように説明している。	居室には、空調、洗面設備、クローゼットが備え付けられています。カーテンは利用者の持ち込みです。ベッドは事業所にあるものを利用することもできます。家族写真やテレビ、馴染みのあるタンスなどを持ち込み、くつろいで過ごせる部屋にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内は、すべてバリアフリーで廊下、浴室、トイレに手摺を設置している。トイレなどには、わかりやすいように大きな張り紙をしている。		

事業所名	グループホームすずの家
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入口、事務所、各フロアにすずの家の理念を掲示し職員は実務に努めている。申し送り時、カンファレンス、勉強会で理念を確認し、サービスを実施している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に参加し、クリーンキャンペーンや井戸端会議、ふれあい喫茶に参加し交流を図っている。地域の方が大正琴やお菓子作り等のボランティアで来所される。（現在コロナウイルス感染拡大防止のため、中止状態）		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入口に看板を立て、地域の方が気軽に訪問できる環境づくりを行っている。（現在、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止状態）		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用状況、行事等の報告を行い、意見交換している。（コロナウイルス感染拡大防止のため、運営推進会議は書面で行っている）		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の高齢介護課へ毎月空室状況を報告。開所時より毎回、運営推進会議に出席いただき入居者の様子や取組等を説明し、意見交換している。（コロナウイルス感染拡大防止のため、運営推進会議は書面で行っている）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束について研修に参加し、3ヶ月に1度、勉強会で情報を共有し、身体拘束をしないケアを実践している。(コロナウイルス感染拡大防止のため、外部研修は見合わせている)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修に参加し、3ヶ月に1度勉強会で情報共有し、虐待防止に取り組んでいる。(コロナウイルス感染拡大防止のため、外部研修は見合わせている)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的に研修に参加し、勉強会で情報共有し、権利擁護に取り組んでいる。(コロナウイルス感染拡大防止のため、外部研修は見合わせている)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約の際は、重要事項内容について説明を行い疑問や不安があれば、じっくり話し合いを行うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	事務所前に意見箱を設置したり、家族の意見や要望を伺い反映するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は週に数回、管理者はほぼ毎日出勤し、コミュニケーションがとれている。カンファレンスや個別面談で職員の意見を聞き反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、週に数回来所し、職員の体調、精神面に気を配っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修を推奨し、希望者には、勤務変更等受講しやすい環境作りがされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市内の他事業者と2ヶ月に一度の連絡会に参加して交流をもっている。（現在、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止状態）		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に本人と面談し、要望、困りごと、不安なことを聞き取り安心して生活できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前に家族と面談を行い、困りごとや不安なことなどについて、傾聴し、安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族から話を聞き取り必要な支援は何か見極め支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常に職員は、利用者主体に関わり、一緒に時間を大切にする中で、お互いの理解を深め思いをくみ取り活かそうとしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族は、本人にとって一番重要な存在であるため、いつでも面会したり、外出できるよう働きかけている。日々の様子を知っていただくために、月に一度便りと写真を送付している。（現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、面会中止状態）		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族と馴染みの方の来所を促している。自宅への一時帰宅も行っている。（現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止状態）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	申し送りやカンファレンス等で情報共有し、利用者一人ひとりの性格を把握し、毎日マンツーマンで複数の職員が関わる時間を持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスを終了したご家族に運営推進会議に参加していただいている。（現在、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止状態）		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を日々の言動からくみ取っている。希望をうまく伝えられない方は、表情、仕種でくみ取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族面談の時などに本人の生活履歴を確認し、職員で情報共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のケア記録で心身状態や様子を残し、職員は出勤時に記録に目を通し、状況を確認するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族からの要望、意見を確認し、カンファレンスで話し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	食事、服薬、排泄、日々の様子、発言内容をタブレットに記録している。個別記録は、一覧でき職員間で情報交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	カンファレンスや申し送り等で情報交換し、変化するニーズに対応したサービスができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアの方々に定期的に来てもらうことで利用者が楽しまれている。近所の美容室がヘアカットに来てくれたり、ふれあいの家のカフェを利用し楽しんでいただいている。（現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止状態）		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所時にご本人、ご家族と相談の上、適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は、週に一度来所し、必要時は、24時間365日連絡し確認できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院のソーシャルワーカーと連携を図り、情報交換、相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期に関しては、入居時に指針を説明している。入居後、終末期と考えられたら、ご家族、ケアマネ、ホーム長、医師、看護師と現状、今後の対応を確認し、定期的に面談を行う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	経験が浅い職員は、独力での対応が難しいこともあるが、管理者や同僚らの力を借りながら対応している。医師、看護師より支持を受けた内容は、スタッフで共有し、実践できている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に防災訓練を行っている。年に2回消防署立ち合いの総合訓練を行っている。（現在、コロナウイルス感染拡大防止のため、総合訓練は中止状態）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように尊敬の念を持って接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者の活動を制限しないよう見守っている。危険の無い範囲で自由に活動していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の訴えに寄り添う努力を行っている。利用者のペースに合わせて穏やかに過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床、就寝時や入浴の際は、服を自分で選んでいただけるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや食器拭き等職員と一緒にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	タブレットに食事摂取量記録している。水分摂取量がすくないかたには、水分摂取量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、行っている。月に一度歯科往診があり、歯科医と連携が取れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	立位可能な方は、トイレ内でパット交換を行っている。ご本人よりトイレの訴えがある時は、その都度誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、体操を行い体を動かし、水分を多めに摂取できるように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの希望やタイミングで入浴は行えていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	基本的に起床、就寝時間設けていない。ご本人の習慣を大切にし、昼食後、お昼寝される方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人のお薬表を作成してもらっている。症状の変化で医師より内服薬変更等は、連絡ノートを活用して職員全員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の会話の中から、要望を確認するように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候の良い時は、散歩やドライブへ出かけている。普段いけない場所もご家族様の協力を得て、外出、外泊されている利用者もいる。（現在、コロナウイルス感染拡大防止のため、外出、外泊中止状態）		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には、現金所持は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	認知症状が軽度で自ら要望がある時は、行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入口にプランターを設置し、職員と水やりを行ったり、季節に合った掲示物を行ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下にソファを置き居心地の良い場所でゆっくりと過ごせるような工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、なるべく使い慣れた馴染みのある家具、コップや思い出の品をご家族に持ってきていただけるように説明している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内は、すべてバリアフリーで廊下、浴室、トイレに手摺を設置している。トイレなどには、わかりやすいように大きな張り紙をしている。		

令和2年度

目標達成計画

事業所名 社会福祉法人三栄会 グループホームすずの家

作成日： 令和 3 年 7 月 30 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	イベントが減ったため、食事会等の楽しみが不足している。	食事の楽しみを増やすため、日常とは異なる食事会などの工夫。	①屋内でできるイベントを増やし食事に変化をつける。 ②ホットケーキやたこ焼きなど入居者様も参加できるようなお菓子作りを行う。	3ヶ月
2	33	介護度の高い入居者様が増えてきている。看取りの対応をしていかなければいけない。	職員に看取りに対する考えを統一させる。	看取りについての研修、勉強会を行っていく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月